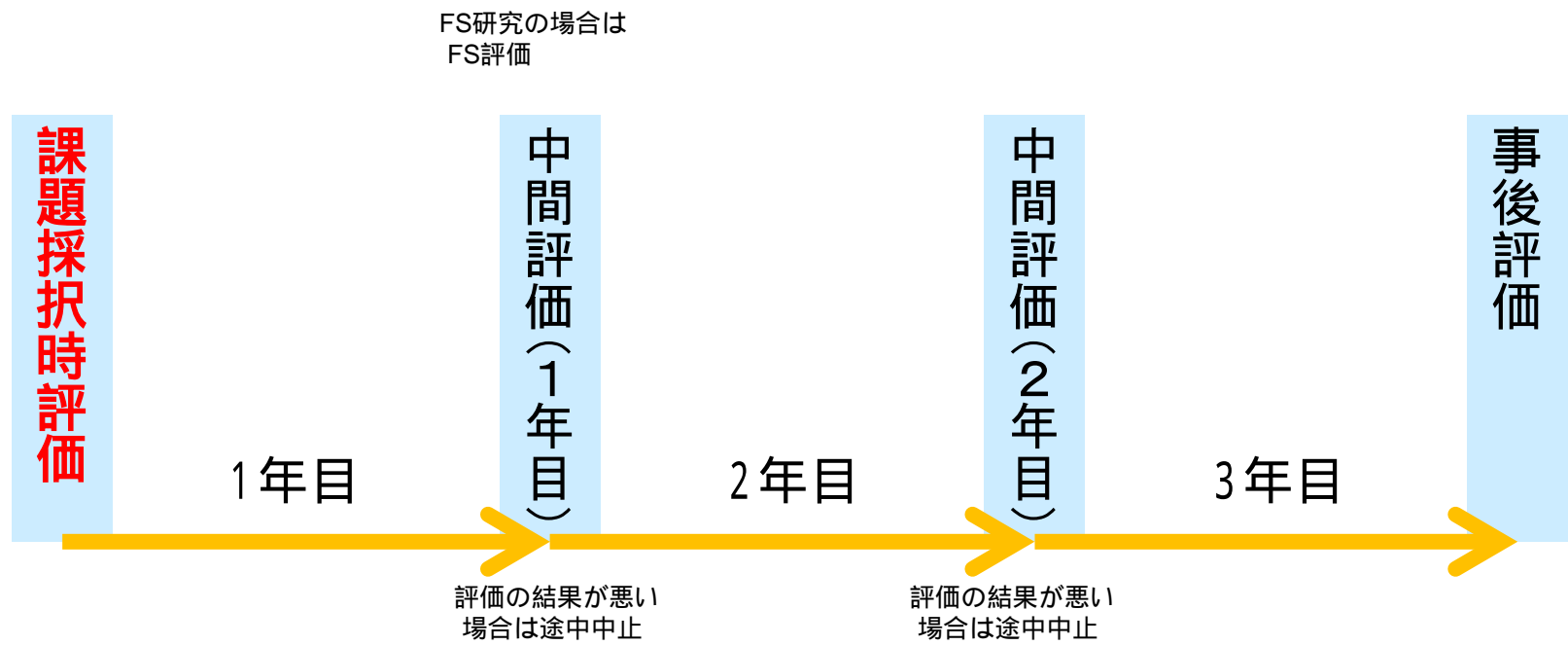


## 平成30年度採択課題の募集について(概要)

## 採択～評価の流れ(研究期間3年の場合)



# 募集する研究テーマ

		← 一般課題		特定課題 →
公募タイプ	タイプ (政策実現型)	タイプ (技術ブレイクスルー型)	タイプ (新政策領域創造型)	タイプ (特定課題対応型)
概要	現在の道路行政の重点課題の解決に資する研究	技術的課題の画期的な解決を目指す研究	政策横断的な視点から道路行政の新たな政策領域を提案する研究	道路行政における社会的なニーズ等を踏まえた特定の政策課題に対応した研究
	以下の政策領域のいずれかに関するもの 新たな行政システムの創造 道路ネットワークの形成と有効活用 新たな情報サービスと利用者満足度向上 コスト構造改革 美しい景観と快適で室の高い道空間の創出 交通事故対策 防災・災害復旧対策 道路資産の保全 沿道環境、生活環境 自然環境、地球環境			特定課題 ・AIを活用した交通分析・予測・マネジメント手法の開発 ・道路構造物の点検・診断結果の判断及び活用に資する研究開発
研究費規模 (年間限度額)	最大5,000万円まで			最大5,000万円まで
研究期間	平成30年度から1～3年間			平成30年度から1～3年間
公募タイプ	実行可能性調査(FS)			
概要	タイプ～において、研究の本格採択にあたり事前に実行可能性や具体的方途等について検討・分析を行う研究			
研究費規模	100～1,000万円程度			
研究期間	平成30年度1年間 (1年後に研究課題の本格採択の是非を審査)			

## (参考) 過去の特定課題

	ソフト分野	ハード分野
H22	-	歴史的街並みの保全、観光振興等の地域の魅力向上を目指した面的な無電柱化事業に対する社会的なニーズを踏まえ、無電柱化事業の喫緊の課題であるコスト縮減、工期短縮、施工性向上等を図り、無電柱化の効率的推進に資する技術開発に関する研究テーマ
H26	大都市圏の環状道路の効率的な運用	橋梁やトンネル点検を低コストで効率的に支援する技術
H27	-	橋梁点検において、技術者自らが近接し、かつ打音・触診を行うことを前提とした場合に、診断の質の向上や記録の効率化・高度化を支援する技術群パッケージの開発
H28	ETC2.0を含む多様なビッグデータを活用した 地域戦略における交通需要・空間マネジメント手法の開発 平時及び災害時のデータプラットフォームの開発 ストック効果と信頼性評価手法の開発	-
H29	自動運転社会の実現に必要な道路インフラについて	生産性向上を図り、ライフサイクルコストの縮減に資する道路構造物の補修・補強に関する技術開発

# 公募・審査の手順(スケジュール)

H30年度採択課題の公募方針決定 (第33回 新道路技術会議)

(11月9日)



H30年度採択課題の公募

(11月中旬～12月下旬)



一次審査の実施

(～1月下旬)

- 国交省担当行政官・担当研究官が、評価基準(創造性、実現性、研究体制)に基づき、評価を実施
- 委員からの推薦案件の確認。



各分科会(ソフト/ハード)によるヒアリング審査の実施

(1月下旬～2月上旬)

- 分科会(ハード/ソフト)毎にヒアリング審査を開催(1課題あたりの時間は、説明10分、質疑10分。4時間程度)
- 説明・質疑応答を踏まえ、分科会毎に合議により各公募案件の順位付けを行う。



H30年度採択課題の審議・決定 (第34回 新道路技術会議)

(3月上旬)

ヒアリング審査の結果を踏まえ、合議によりH30年度採択課題を審議・決定。



審議結果の通知及び公表

(3月中旬)

- 結果を問わず、研究代表者に書面にて事務局から通知
- 道路局ホームページ等において、採択された研究(研究テーマ名と応募時の提案概要等)を公表

# 一次審査における審査基準

	タイプ (政策実現型)	タイプ (技術ブレイクスルー型)	タイプ (新政策領域創造型)	タイプ (特定課題対応型)
創造性	30%	40%	60%	20%
実現性	50%	40%	20%	60%
研究体制	20%	20%	20%	20%

創造性	発想や目標とする成果、研究方法にこれまでにない新規性があるか さらに新たな政策研究への展開を開けるなどの先導性があるか
実現性	道路行政ニーズに適合しているか(研究に社会的意義があるか) コストパフォーマンスを含め実効性のある成果が望めるか
研究体制	研究目標を達成するために適正かつ研究規模に応じた実施体制 (人員、役割・責任分担、設備、スケジュール、連携先等)となっているか 研究経費の内容(外注がある場合はその必要性、範囲等を含め)は適切か